

サレジオン国際学園中学校高等学校 令和7年度 単元ルーブリック

学年／コース	高3／本科・GS	教科／科目	社会／地理演習	時間数	週4時間
1学期中間試験					
単元名	台湾地政学、南アジア地政学、アフガニスタン地政学、アメリカ地政学				使用教材
単元の概要	日本と比較的関りの深いアジア諸国・太平洋諸国の地政学的特徴を学びながら、日本と周辺諸国との関わり方を再考する。				『地理探究』(二宮書店)・『詳解現代地図 最新版』(二宮書店)
評価規準			単元内容		
究	A3 台湾・南アジア・アフガニスタン・アメリカの地理的特徴を表現・説明できる。	B3 台湾・南アジア・アフガニスタン・アメリカの地理的特徴を深化・転移・統合できる。	C3 台湾・南アジア・アフガニスタン・アメリカの地理的特徴をもとに、クリエイティブに考えることができる。	○台湾の基本情報 ○台湾の成り立ち ○台湾と中国の関係性の歴史 ○台湾が欲しい理由(安全保障) ○台湾が欲しい理由(一帯一路) ○台湾侵攻はどこまで現実的か	○気候と地形と独立戦争 ○バングラデシュと日本の支援
	A2 台湾・南アジア・アフガニスタン・アメリカの地理的特徴を理解している。	B2 台湾・南アジア・アフガニスタン・アメリカの地理的特徴を系統地理と照らし合わせて、他地域と結び付けられる。	C2 台湾・南アジア・アフガニスタン・アメリカの地理的特徴をもとに、クリティカルに考えることができる。	○バングラデシュ・パキスタンの基本情報 ○バングラデシュ・パキスタンの成り立ち ○パキスタンの地理的特徴と発展 ○バングラデシュの地理的特徴と発展	○アフガニスタンの基本情報 ○アフガニスタンは何もないのか ○アフガニスタンとグレートゲーム  ○トランプ氏はどんな大統領か？ ○アメリカの産業移行 ○なぜトランプ大統領は生まれたのか？
活	A1 台湾・南アジア・アフガニスタン・アメリカの地理的特徴を知っている。	B1 台湾・南アジア・アフガニスタン・アメリカの地理的特徴を系統地理と照らし合わせて一般化できる。	C1 台湾・南アジア・アフガニスタン・アメリカの地理的特徴をもとに、ロジカルに考えることができる。	〈留意点・評価〉	
	知性・知識	応用・発展	創造的思考	○適宜、共通テストなどの過去問を用いた問題演習を実施する予定。	

サレジアン国際学園中学校高等学校 令和7年度 単元ルーブリック

学年／コース		高3／本科・GS	教科／科目		社会／地理演習	時間数	週4時間
1学期期末試験							
単元名	イラン、イスラエル、旧ユーゴスラビア地政学					使用教材	
単元の概要	イラン、イスラエル、旧ユーゴスラビアの地理的特徴から、紛争の性質と原因、そして無くす方法考える					『地理探究』(二宮書店)・『詳解現代地図 最新版』(二宮書店)	
評価規準				単元内容			
究 活 礎	A3 イラン・イスラエル・旧ユーゴスラビアの地理的特徴を表現・説明できる。	B3 イラン・イスラエル・旧ユーゴスラビアの地理的特徴を深化・転移・統合できる。	C3 イラン・イスラエル・旧ユーゴスラビアの地理的特徴をもとに、クリエイティブに考えることができる。	○イランの基本情報 ○イランの成り立ち ○イランと大国の思惑 ○イランとアメリカ・中国 ○イランと日本の蜜月関係 ○イランは世界情勢のカギ ○日本は何ができるか？		○旧ユーゴスラビア各国について ○ユーゴスラビアの形成史(地形) ○ユーゴスラビア崩壊と地理 ○ユーゴスラビア紛争を再現しないために	
	A2 イラン・イスラエル・旧ユーゴスラビアの地理的特徴を理解している。	B2 イラン・イスラエル・旧ユーゴスラビアの地理的特徴を系統地理と照らし合わせて、他地域と結び付けられる。	C2 イラン・イスラエル・旧ユーゴスラビアの地理的特徴をもとに、クリティカルに考えることができる。	○イスラエルの基本情報 ○イスラエルの成り立ちとユダヤ教 ○イスラエルは敵ばかり ○イスラエルの背後 ○第5次中東戦争は不可避？			
	A1 イラン・イスラエル・旧ユーゴスラビアの地理的特徴を知っている。	B1 イラン・イスラエル・旧ユーゴスラビアの地理的特徴を系統地理と照らし合わせて一般化できる。	C1 イラン・イスラエル・旧ユーゴスラビアの地理的特徴をもとに、ロジカルに考えることができる。	〈留意点・評価〉			
	知性・知識	応用・発展	創造的思考	○適宜、共通テストなどの過去問を用いた問題演習を実施する予定。			

サレジアン国際学園中学校高等学校 令和7年度 単元ルーブリック

学年／コース	高3／本科・GS	教科／科目	社会／地理演習	時間数	週4時間
2学期中間試験					
単元名	北欧、ウクライナ、ロシア地政学				使用教材
単元の概要	北欧とロシア・ウクライナについて学び、今現在の世界情勢を俯瞰できるようにする。				『地理探究』(二宮書店)・『詳解現代地図 最新版』(二宮書店)
評価規準			単元内容		
究	A3 北欧・ウクライナ・ロシアの地理的特徴を表現・説明できる。	B3 北欧・ウクライナ・ロシアの地理的特徴を深化・転移・統合できる。	C3 北欧・ウクライナ・ロシアの地理的特徴をもとに、クリエイティブに考えることができる。	○北欧各国の基本情報 (デンマーク・スウェーデン・ノルウェー・フィンランド) ○北欧の幸福度とその間 ○北欧の平和と紛争 ○日本は北欧に何を学ぶべきか？	○ウクライナは何故狙われてきたのか？ ○ウクライナは何故西側にこだわるのか？ ○ウクライナは自分の国を守れるのか？ ○ウクライナ紛争の展望
	活	A2 北欧・ウクライナ・ロシアの地理的特徴を理解している。	B2 北欧・ウクライナ・ロシアの地理的特徴を系統地理と照らし合わせて、他地域と結び付けられる。	C2 北欧・ウクライナ・ロシアの地理的特徴をもとに、クリティカルに考えることができる。	
礎		A1 北欧・ウクライナ・ロシアの地理的特徴を知っている。	B1 北欧・ウクライナ・ロシアの地理的特徴を系統地理と照らし合わせて一般化できる。	C1 北欧・ウクライナ・ロシアの地理的特徴をもとに、ロジカルに考えることができる。	〈留意点・評価〉
		知性・知識	応用・発展	創造的思考	○適宜、共通テストなどの過去問を用いた問題演習を実施する予定。

サレジアン国際学園中学校高等学校 令和7年度 単元ルーブリック

学年／コース		高3／本科・GS	教科／科目		社会／地理演習	時間数	週4時間
2学期期末試験							
単元名	ドイツ、スイス、オーストリア地政学					使用教材	
単元の概要	ヨーロッパにおける要衝でもある3国の地理的特徴から先の大戦の原因とこれからの紛争の予防法を読み解く。					『地理探究』(二宮書店)・『詳解現代地図 最新版』(二宮書店)	
評価規準				単元内容			
究   活   礎	A3 ドイツ・スイス・オーストリアの地理的特徴を表現・説明できる。	B3 ドイツ・スイス・オーストリアの地理的特徴を深化・転移・統合できる。	C3 ドイツ・スイス・オーストリアの地理的特徴をもとに、クリエイティブに考えることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ドイツの基本情報の確認</li> <li>○ドイツの成り立ちの確認</li> <li>○ドイツの地理的特徴の確認</li> <li>○ドイツが生み出した独裁者</li> <li>○なぜ、ヒトラーが生まれたのか？</li> <li>○歴史的事象の地理的必然性</li> <li>○独裁者出現は避けられない？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○オーストリアの基本情報</li> <li>○オーストリアの成り立ち</li> <li>○オーストリアの地理的特徴</li> <li>○オーストリアも永世中立国</li> <li>○オーストリアの永世中立国化と地理</li> <li>○永世中立国は増えるか？</li> <li>○日本の永世中立国化</li> </ul>	<div style="background-color: #ADD8E6; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">〈留意点・評価〉</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○適宜、共通テストなどの過去問を用いた問題演習を実施する予定。</li> </ul>	
	A2 ドイツ・スイス・オーストリアの地理的特徴を理解している。	B2 ドイツ・スイス・オーストリアの地理的特徴を系統地理と照らし合わせて、他地域と結び付けられる。	C2 ドイツ・スイス・オーストリアの地理的特徴をもとに、クリティカルに考えることができる。				
	A1 ドイツ・スイス・オーストリアの地理的特徴を知っている。	B1 ドイツ・スイス・オーストリアの地理的特徴を系統地理と照らし合わせて一般化できる。	C1 ドイツ・スイス・オーストリアの地理的特徴をもとに、ロジカルに考えることができる。				
	知性・知識	応用・発展	創造的思考				